

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593338

研究課題名(和文)子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成

研究課題名(英文) Construction of a program guideline using vaccinations as educational intervention opportunities for the promotion of health in children

研究代表者

川口 千鶴 (Kawaguchi, Chizuru)

順天堂大学・医療看護学部・教授

研究者番号：30119375

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、子どものヘルスプロモーション(健康の維持・増進)促進のために、多くの看護師が実施できる予防接種に関する健康教育プログラムを作成することを目的とした。文献や看護師へのインタビュー調査などから、2-3歳、4-6歳、学童の3つの区分を定め、それぞれのプログラムを作成した。この3プログラムに関して10施設の看護師の協力を得、145人の子どものデータ等を得た。その結果、看護師は、子どもや保護者の反応からプログラム実施の効果を感じ、子どもの理解力や頑張る力に保護者が気づく機会になったと認識していた。また、4-6歳と学童では、予防接種の理解がより深まり主体的に接種に臨むことにつながったと考察した。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted to construct an educational program on vaccinations for the promotion and maintenance of child health to be implemented by nurses. Three versions of the program were used incorporating age-appropriate play, dividing children into 3 age groups, 2-3 years old, 4-6 years old, and elementary school, were used. All versions were found effective for promoting understanding of vaccinations among the children, raising guardian awareness of a child's capacity to appreciate the significance of vaccinations and health care given proper instruction, and allowing them to witness the positive effects of elevating understanding through the children's attitudes in receiving instruction, and subsequently, the vaccination itself. It also allowed both nurses and guardians, witnessing such change, to recognize the need and importance of providing children with proper explanations regarding vaccinations and matters affecting the body and health from an early age.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：子ども 予防接種 ヘルスプロモーション 健康教育 看護師

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 子どものヘルスプロモーションと看護

日本における子どもの健康を考える上で、子どものヘルスプロモーションについては、「健やか親子21」をはじめとし、日本学術会議健康・生活科学委員会子どもの健康分科会から出された報告「子どものヘルスプロモーション」(2010)などによって、その必要性、重要性は周知のことである。加えて、子どものヘルスプロモーションに向けた健康教育は、保健施設、学校、地域のサークルなど多くの分野・職種が関わっている。

看護師の多くは医療機関に所属して活動している。看護における健康教育としては、疾病の回復後あるいは障害が固定された状態、すなわち慢性の疾患や障害を持つ子どもたちを対象に、主に退院指導などで健康の保持・増進に関するケアの実践が行われている。近年、小児外来等の外来看護においても子どものヘルスプロモーションへの関わりが検討されてきており、医療機関におけるヘルスプロモーションの促進に向けた看護の役割が拡大しつつある。しかしながら、外来においても病気や障害を抱える子どもたちへのケアに重きがおかれ、外来等における看護師による子どものヘルスプロモーションに向けた看護ケアの実践の報告は少ない。特に、予防接種等で受診する健康な子どもへのケアについてはあまり深まっていないのが現状である。

### (2) 予防接種と子どものヘルスプロモーション

予防接種は感染症予防対策の一つであり、子どもを重篤な感染症から守り、その後の子どもの健康な成長・発達に寄与する。また、予防接種はすべての子どもが対象であり、子どものヘルスプロモーションを高める看護介入の機会として効果的である。さらに、小児期において接種される予防接種は種類が多く、養育者にとって子どもの健康と関連した大きな関心事である。同時に、子どもにとっては痛い注射をしなければならないこと、養育者にとっては嫌がる子どもを連れていくこと、副反応や安全性に対する不安など、心理的な負担であることも多い。

予防接種を予定している子どもは、多くの場合健康な状態で医療機関と接点を持つ。このため、子どもが自分の体や健康について知り、子どもの健康の保持・増進に関する子ども自身および養育者の意識を高めるよい機会である。さらに、子どもが自身の体や健康、予防接種の必要性などを知ることは、子どもがより主体的に予防接種を受けられることにつながる。また、養育者への予防接種の認識を高めることにも貢献し、その結果、子どもや養育者の心理的な負担が少なくなり、より子どものヘルスプロモーションに対する意識を高めることになる。

### (3) 予防接種プログラムの作成とガイドラインの必要性

研究者のグループはこれまで、外来看護における子どものヘルスプロモーションに向けたケアのあり方の一つとして、外来における5種類の看護プログラム(「診察ってなに?」「吸入ってなに?」「点滴ってなに?」「血液/採血ってなに?」「予防接種ってなに?」)を開発した。その中の「予防接種ってなに?」の看護プログラムは、幼稚園3施設において医療機関の看護師が行う集団教育として実践した。その結果、子どもたちの反応は良く、保護者からの意見も肯定的であった。この結果をプログラム内容とともにワークショップ等で発表したが、ワークショップ後参加者が自施設で行うには至っていないのが現状である。看護師が「やってみよう・できると思う」までには意識づけられなかったためと思われる。

このため、看護師による子どものヘルスプロモーションを高める健康教育のチャンスとして、場や対象年齢の検討を行い、年齢(発達段階)や場の汎用性を高めた予防接種教育のプログラム・ガイドラインを作成し、プログラムの効果を検証するとともに、普及方法を検討することが重要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、子どものヘルスプロモーションの促進に向け、看護師が行う子どもの予防接種に関連した看護介入のプログラムを作成・実践し、予防接種プログラムとして汎用性を高め、具体的な看護介入プログラムの普及に向けたガイドラインを作成することを目的としている。

## 3. 研究の方法

### (1) 予防接種介入プログラムの対象・場の検討

#### 文献検討

日本外来小児科学会ワークショップにおける意見収集

研究協力者等の看護師からの意見収集

### (2) プログラム作成

研究者間で、先行研究で作成したプログラムの見直し

#### 新たなプログラムの作成

プログラム実施による結果や看護師の意見などから、プログラム・ガイドラインの修正

### (3) プログラムの実施と効果の検証

プログラムの実施及びデータ収集を行う協力者の募集

協力者のリクルートは、日本外来小児科学会ワークショップの参加者に研究の説明をして募集、および研究メンバーを通じた研究協力施設・協力者の募集をした。

プログラムの実施と効果の検証

協力者にプログラム実施を依頼し、2~3歳用は実施群のみ、4~6歳と小学1年生用、小学2~6年生用は、対照群と実施群のデータを収集した。

<データ収集項目>

[対象者に関して]

- ・子ども(2~3歳用を除く):子どもへの質問および行動観察
- ・保護者:アンケート
- ・看護師:アンケート

[実施したプログラムに関して]

- ・看護師:アンケート(施設ごと)
- ・看護師:インタビュー

(4)普及に向けて考慮すべき内容・普及方法の検討

看護師へのインタビュー(上記)

日本外来小児科学会ワークショップにおける意見収集

なお、研究の全過程において倫理的配慮に心がけるとともに、子どもへのプログラムの実施とそれに伴う子ども・保護者・看護師からのデータ収集、および看護師へのインタビューに関しては、研究者の所属する機関の研究等倫理審査の承認を得て行った。(承認番号:順看倫第24-27号、順看倫第25-4号)

#### 4. 研究成果

(1)発達段階に適したプログラムの作成

効果的な対象および場については、文献検討および日本外来小児科学会におけるワークショップや研究協力者等の看護師からの意見を踏まえ研究者間で議論した。

その結果、対象については、先行研究では4~5歳用プログラムを提示していたが、それ以下の年齢の幼児およびそれ以上の年齢の学童についても、予防接種を一つの健康教育のチャンスとして活用することが可能であり重要であるとの認識に至った。そして、プログラムを2~3歳用、4~6歳と小学1年生用、小学2~6年生用の対象年齢別プログラム3種類とすることとした。

場については、検討の結果、実践可能性を考慮し、外来やクリニックなど、子どもが予防接種を受ける場を想定した予防接種介入プログラムとすることに決定した。

子どもが養育者と一緒に予防接種を受けにくる場で、その場の看護師が通常の業務を行いながら、子どもの発達段階に応じた実施可能なプログラムを目標とした。

その後、研究者らが、対象年齢に合わせ、先行研究で作成した4~5歳用を4~6歳と小学1年生用に修正、2~3歳用と小学2~6年生用のプログラムを新たに作成した。3プログラムともリーフレットを作成し、家庭でも振り返られるようにした。

作成したプログラム・ガイドラインは最終的に、実施した看護師らの意見をもとに修正し、完成版とした。

(2)プログラムの実施と効果の検証

対象数

10施設の看護師の協力を得て、145人の子どもおよび保護者のデータを分析対象とした。内訳は、2~3歳用;4施設27例、4~6歳と小学1年生用;5施設(対照群)34例(実施群)26例、小学2~6年生用;7施設(対照群)27例(実施群)31例である。プログラム実施に係る看護師アンケートはプログラム実施数と同じ84、実施した施設からのアンケートは、2~3歳用;4、4~6歳と小学1年生用;4、小学2~6年生用;5であった。看護師インタビューの対象者は15名であった。

分析結果

[子どもへの質問・行動観察から]

4~6歳と小学1年生用、小学2~6年生用では、対照群と実施群の行動の違いなどは明らかにならなかったものの、実施群の子どもへの予防接種に対する知識の理解が具体的に深まっていた。

[保護者のアンケートから]

2~3歳用では、付き添う母親も、子どもが子どもなりに体験することにより予防接種について理解することの重要性に気付いていた。

4~6歳と小学1年生用、小学2~6年生用の実施群では、保護者もプログラムに参加することにより、子どもへの説明方法を知るきっかけになるなど、保護者の予防接種の説明への意識が高まっていた。

[看護師アンケート・インタビューから]

2~3歳用、4~6歳と小学1年生用では、看護師が子どもの反応(以前との比較を含む)や保護者の反応からプログラム実施の効果を実感したこと、また看護師の語りの中に、保護者が子どもの理解力や頑張る力に気付く機会になったことなどがあげられ、保護者にとっても今後の子育てに効果的であったと認識していた。

小学2~6年生用では、看護師が子どもの主体的な行動の変化を感じ、看護師自身の子どもへの説明に対する意識が高まっていた。

[まとめ]

上記のことから、プログラム実施により、子ども・保護者・実施する看護師にプログラムの効果が認められ、子どものヘルスプロモーションにつながることを示唆された。

(3)今後の展望

プログラムの完成版をもとに、今後普及に向けた活動を行う予定である。手始めとして、学会ワークショップで、完成版の紹介や実践に向けた助言などを行う。また、ネットを用いたプログラムの公開方法の検討や他の外来看護師を対象とした研修プログラムなどでの紹介を検討中である。

これらによって、本予防接種介入プログラムをきっかけとして、外来看護師による子どもへのかわり(健康教育)が、子どものヘルスプロモーションにつながることを期待さ

れる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計8件)

川口千鶴、及川郁子、山本美佐子 他、外来看護の検討(8) 予防接種教育をやってみよう、第24回日本外来小児科学会年次集会、2014年8月31日、福岡

黒田光恵、築瀬順子、吉川佳孝、朝野春美、川口千鶴、及川郁子 他、子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラムの効果 - 学童期の子どもを対象として、第24回学術集会、2014年7月20日、東京

石井由美、川口千鶴、及川郁子 他、子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラムの検討 - 看護師のアンケートとインタビューから、日本小児看護学会第24回学術集会、2014年7月20日、東京

三村博美、川口千鶴、及川郁子 他、2~3歳の子どもに行う予防接種介入プログラムの効果 - 保護者アンケートの結果から、第61回日本小児保健協会学術集会、2014年6月21日、福島

古屋千晶、川口千鶴、及川郁子 他、子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラムの効果 - 4歳~小学1年生の子どもと保護者を対象に、第61回日本小児保健協会学術集会、2014年6月21日、福島

川口千鶴、及川郁子、長谷川桂子、山本美佐子、外来看護の検討(7) 子どもの予防接種教育をやってみよう(その2)、第23回日本外来小児科学会年次集会、2013年9月1日、福岡

川口千鶴、及川郁子、長谷川桂子、山本美佐子、外来看護の検討(6) 子どもの予防接種教育をやってみよう、第22回日本外来小児科学会年次集会、2012年8月25日、横浜

及川郁子、川口千鶴、長谷川桂子、山本美佐子、外来看護の検討(5) 外来看護からの発信~子どもに対する予防接種教育~、第21回日本外来小児科学会年次集会、2011年8月27日、神戸

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

川口千鶴 (KAWAGUCHI, Chizuru) 順天堂大学・医療看護学部・教授

研究者番号：30119375

### (2)研究分担者

及川郁子 (OIKAWA, Ikuko) 聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：90185174

### (3)連携研究者

長谷川桂子 (HASEGAWA, Keiko) 岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80326107

(平成24年度まで連携研究者)

山本美佐子 (YAMAMOTO, Misako) 四日市看護医療大学・看護学部・教授

研究者番号：10258882

### (4)研究協力者

古屋千晶 (FURUYA, Chiaki) 順天堂大学・医療看護学部・助教

研究者番号：50621728

橋爪永子 (HASHIDUME, Eiko) 四日市看護医療大学・准教授

研究者番号：60290194

石井由美 (ISHII, Yumi) 医療法人社団上総会山之内病院・看護師

朝野春美 (ASANO, Harumi) 自治医科大学附属病院・看護部長

築瀬順子 (YANASE, Junko) 自治医科大学とちぎ子ども医療センター・看護師長

吉川佳孝 (KIKKAWA, Yoshitaka) 自治医科大学とちぎ子ども医療センター・主任看護師

黒田光恵 (KURODA, Mitue) 自治医科大学附属病院・看護師

三村博美 (MIMURA, Hiromi) 市立四日市病院・看護師長

手塚真由美 (TEDUKA, Mayumi) 自治医科大学とちぎ子ども医療センター・看護師

(平成23年度まで研究協力者)

佐々木祥子 (SASAKI, Shoko) 東京北医療センター・看護師長

(平成25年度より研究協力者)